第3回　安曇野市観光振興ビジョン策定検討委員会　会議概要

1　委員会名	第３回 安曇野市観光振興ビジョン策定検討委員会
2　日 時	平成24年7月13日 午後2時 から午後5時まで
3　会 場	市民活動センター　2階　大会議室
4　出 席 者	増田委員、川﨑委員、樫井委員、清水委員、金井委員、松本委員、加渡委員、太田委員 上條委員、等々力委員、淺川委員 、岡本委員、河崎委員
5　市側出席者	大内商工観光部長、曽根原観光課長、赤羽補佐、高山係長、請地係長、山本主査、 西山主査　　受託事業者（交通公社）
6　公開・非公開の別 公開	
7　傍聴人6人	
8　会議概要作成年月日 平成 24 年 7 月 23 日	

会議事項　　1　開会
2　委員長挨拶
3　議事
①　アンケート調査（市民意識・事業所）及び経済波及効果推計結果の報告
②　安曇野観光の理念/目標像（案）及び基本戦略（案）について
③　安曇野観光の主要施策について
④　意見交換
5　その他
6　閉会

議事録（概要版）

（1）アンケート調査

○事務局より資料 2～3、参考資料について説明

（2）ワークショップ

○事務局より資料 4～5 について説明

○3 つのグループに分かれて、「議題１　安曇野の観光の理念（将来像）とは」、「議論２　安曇野らしい観光のあり方とは」について議論

（3）議論共有

○3 つのグループでどのような議論の途中経過の報告および意見交換

委員（グループ１：発表役）

・　理念として掲げられている「安曇野暮らしツーリズム」では「暮らし」という普通の言葉を「ツーリズム」という言葉でつなげることがどうかという議論となった。安曇野の観光ビジョンでは、

来訪者を呼び集めることを先に考える観光振興ビジョンではなく、安曇野で暮らしていくことの豊かさなり喜びなりをもっと明確にしたい。

- 「安曇野暮らし」の３ヶ条の要素としては、「景観と自然」「歴史と文化」「食と健康」があり、この「安曇野暮らし」の定義を明確にし、安曇野の住民は喜び誇りをもって実践していくということをビジョンの理念としてはどうか。

委員（グループ２：発表役）

- グループ１の議論とほぼ同じことを議論した。
- 観光客という言葉に違和感があるため、訪れる人等にした方が柔らかいイメージがある。また、ツーリズムという言葉にも違和感を感じた。
- 安曇野はイメージで作られていて、安曇野自体がブランドで、天国や理想郷のイメージに似ている。お金も必要だが、来ていただいた方がいい体験ができたいのでその対価としてお金を払ってもらえるようにしていきたい。
- 安曇野の暮らし方を来訪者と共により良くしようということができたらいいのではないか。

委員

- 「安曇野暮らし」をひとつのムーブメント・主義にしようという意識が入っているのであれば私たちの考えている正解に近いのではないか。「ツーリズム」という言葉が入っていることには違和感を感じる。

委員（グループ３：発表役）

- 理念の方向性はいいと思う。今まで言われてきた「観光」という言葉に違和感を感じる。普段自分たちが暮らしている生活に魅力があるのではないか。
- ツーリズムという言葉についてもいいのかどうかわからないが、その代わりにどのような言葉があるのかということを議論し、「エコ」というものや、安曇野に暮らしている人にとってもふるさとであると同時に、安曇野を訪れる人もふるさとを感じるという意味で、「心のふるさと」という言葉も合うのではないかという意見があった。

委員

- ツーリズムと言う言葉は、「なぜ、あなたはそれに取り組むのか」ということだと考えている。そういう意味ではツーリズムという言葉でいいのではないか。安曇野の観光ビジョンは、安曇野の暮らしにぬくもり、ふるさとを感じられるような社会を作っているために取り組んでいる、という理念がいいのではないか。

委員長

- 観光ビジョンに向けてベクトルは揃ってきている。

委員

- 「安曇野暮らし」をブランドにと言ったが、「この地で暮らせていること」を喜びに思っているので、この言葉はすごくいいと思っている。しかし、「暮らし」という普通の言葉が観光振興の肝となるフレーズとしていいのかどうか悩んでいる。

委員

- イギリスのナショナルトラスト運動があるが、それを同じように、安曇野暮らしの意味としては、訪れる人も住んでいる人も一緒になって安曇野の素晴らしさを維持していこうというもの。その要素として「自然、景観を守る」「歴史文化芸術を楽しむ」「健康、安全な食生活をしよう」ということだと思う。次のステップとしては、「除草剤はなるべく使わない」「安曇野で生産され

る野菜、米、果物も健康のことを考えている」という安曇野に１日でも２日でも暮らしませんか？というイメージで理念を打ち立てようとグループ１で議論した。そこの考え方を委員全体で共有したい。

委員

・ 観光には来る楽しみの他に体験というものがあるが、農業体験と言っても「業」ではなく、ちょっとリンゴをとってみたいというような「農」の部分がしたい。これをいかにサポートしていけるかが観光につながる。観光という言葉ではなく、交流することが生き様ではないか。だから観光という言葉はあえて使う必要はない。

委員

・ 議論の方向付けは間違っていない。これからの提案は、あわてて進めるのではなく全員が胸に落ちるまで議論をしていくべきではないか。

委員

・ 安曇野に宿泊される方は、上高地や黒部ダム、松本市等を目的としており、宿泊費が安価である安曇野の宿泊施設を利用されている。それではいけない、また、安曇野は泊まってもらってゆっくり見てもらうと良い資源があるということで、市内宿泊施設が集まって「暮らしように泊まるプロジェクト」に取り組んでいる。安曇野はこれから観光を見直していこうというところなので、観光ビジョンでの話し合いは今後に向けて、非常に良い話し合いになっている。

委員

・ 「安曇野暮らし」というと少し違和感があるが、その気持ちや雰囲気は伝わる。安曇野スタイルという言葉が合うのではないか。

委員

・ 「暮らし」というイメージは非常にいいのではないか。体験型のツアーにもつながってくる。また、「安曇野暮らし」をブランドとした際に安曇野暮らしが連想できるサービスや商品にラベル等を貼るという展開も考えられる。

・ 安曇野暮らしは何かというのを考え、これが「安曇野暮らし」というものを打ち出したい。それらをリーフレットなどに宣言できるようになると観光ビジネスの中核になり非常に面白いものになると思った。

委員

・ 安曇野で暮らしたいという憧れを持っている人は非常に多いが、移住はハードルが高い。安曇野での暮らしを体験してみたい人が非常に多く、リピーターとることで、プチ安曇野人になれる。

委員

・ 安曇野の女性に「女性の力で安曇野に新風をおくろう」と呼び掛け、民話を語り継いで、観光客や子供たちに信州にはこんなに素晴らしい民話があると伝えていく取組を行っている。

委員長

・ キーワードが「安曇野暮らし」になっているが、安曇野暮らしとは何か。住みたくなる、訪れてたくなるような暮らしではないか。一緒になって安曇野暮らしを楽しみましょう、というのがツーリズムのようなものである。「安曇野暮らし」をどういう風に捉えるのかを議論をしたい。

〇意見交換後、３つのグループで「安曇野暮らし」をどのように捉えるのか再度、議論

以上